

## 市民に親しまれる博物館をめざして(4)

今回は、構想検討委員会で検討されている博物館の展示について紹介したいと思います。

### 展示の考え方

現在各地にある博物館や郷土資料館を大きく分類すると次のようになります。

①上野にある東京国立博物館や京都にある京都国立博物館に代表されるもので、国宝や重要文化財クラスの文化財を展示した博物館の代表的な施設です。

②千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館や東京にある江戸東京博物館に代表されるもので、歴史学や民俗学の研究成果を踏まえ、レプリカ(複製品)を活用しての通史的展示が行われている施設です。

③地域の民俗資料や歴史文書などを収蔵展示する郷土資料館で、農耕用具や生活用具などが豊富に展示されているのが特徴です。

山梨県内の郷土資料館の多くは③のタイプですが、近年建設されている施設は、レプリカ(複製品)やジオラマ(立体模型)の多用によって、地域の歴史的特色や流れがわかりやすく展示された②のタイプが主流となって来ています。

しかし、このような施設では、①のタイプに見られるような実物資料の展示から得られる感動が乏しいと言わざるを得ません。

本市の施設としては、これらを考慮する中で、実物資料の展示にアクセントを置き、テーマ性、個性を重視した展示(②のタイプ)を目指したものが望まれます。

### 展示の方法と内容

博物館の展示には、固定的な常設展示と期間を定めて行う企画展示の二つがあります。

常設展示では、先月号の広報で紹介した八朔祭屋台と飾幕や小山田家寄託資料の他、他市町村に誇れる考古資料、これから収集に力を入れる予定の郡内絹など、都留市の文化や歴史を代表する実物資料を中心に、展示テーマとして「江戸期の文化」、「明治・大正期の様相」、「戦国期の小山田氏」などが検討されています。

企画展示は、博物館が独自に収集整理した資料や、調査研究した成果の公開や発表の場として、随時開催することにより、博物館へのリピーター(再訪者)の増加が期待できます。企画展としては、例えば、近世大名秋元展、考古資料展、郡内村絵図展、芭蕉と郡内俳諧展、郷土の画家・文人展など、博物館の活動を通じて、限りなく広がるものと思われれます。

そのためには、展示室スペースとして、常設展示室と共に企画展示室の設置が必要となります。

博物館建設が予定されている新町用地は、城下町であった谷村町の中心街に位置し、周辺には勝山城址、谷村城址などの史跡や、由緒ある寺社が集中するなど、環境としては最適な地です。

したがって、展示もすべて館内に取り込むのではなく、博物館を中心として、史跡・文化財・自然などそれぞれの場所、散策しながら学習できるというような、市内全域を「まるごと」博物館に見なすという構想も検討されています。

近年各地で、個性的な博物館や資料館づくりが図られるようになってきます。県内でも、富士吉田市歴史民俗博物館は「富士山と富士講」、大月市郷土資料館は「猿橋と岩殿山」、春日居町郷土資料館は「寺本庵寺と小川正子」、豊富村郷土資料館は「養蚕」、下部町では金山博物館、長坂町ではオオムラサキセンターといったように、それぞれ特色ある展示内容となっています。

都留市では、郷土を学び、市民に親しまれる博物館づくりを目指して構想検討を進めています。この中で、やはり八朔祭屋台と飾幕は、本館の特色となり来館者に強い印象を与えるものと思われれます。

市民の皆さんのご意見をお寄せください。

社会教育課文化振興係

## 消防団員総合訓練大会

「第二十回都留市消防団員総合訓練大会」が十月二十二日、都留第一中学校グラウンドで行われました。

この訓練大会は、消防団員に必要とされる厳正な規律と旺盛な消防精神を養い、災害時の活動を迅速・的確にすることを目的に開催されています。

大会では、団長訓示のあと、服装・機械器具点検、消防訓練礼式、谷村第二分団による小型ポンプ操法の展示、放水訓練など全団員が日ごろの訓練の成果を発揮しました。

これからは空気が乾燥して、火災が発生しやすい季節となります。市民の皆さん、火の取り扱いには十分注意しましょう。



### 平成七年秋の叙勲

元都留市消防団長 小林庸夫さんが、永年の消防功勞により「勲六等単光旭日章」を受章されました。

### 生涯学習フェスティバルの開催

より充実した生活を送るために、生涯にわたる学習の推進をめざすフェスティバル(講演会と音楽会)を、二月四日に開催します。詳しくは広報一月号でお知らせします。

## 年末年始の交通事故防止 県民運動

12月10日～1月10日

運動の重点項目

- 飲酒運転の絶滅
- シートベルト着用の徹底
- 若者と高齢者の交通事故防止